

筑後地域における大豆後晩播小麦の高品質安定生産のための播種量と窒素施肥法					
[要約] 大豆後で小麦を晩播する場合、倒伏、収量、検査等級およびタンパク質含有率からみた適正な播種量および窒素施肥法は、「シロガネコムギ」で7.3kg/10a、3+6+2kg/10a、「チクゴイズミ」では5.2kg/10a、0+7+2kg/10aである。					
担当部署	筑後分場・水田高度利用チーム			連絡先	0944-32-1029
対象作目	麦類	専門項目	栽培	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

小麦の作付けの多い筑後地域では、大豆の作付面積拡大に伴い、大豆後に作付けされる小麦の割合が高まっている。大豆後作に小麦を作付けする場合、播種時期が遅くなり、12月上旬に播種することが多い。また、大豆後では生育過多になりやすく、倒伏による品質低下を招くことが多い。

そこで、大豆後晩播小麦の高品質安定生産のための最適な播種量と窒素施肥法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「シロガネコムギ」の場合、播種量は穂数と収量からみて7.3kg/10aが良い。また、収量、検査等級およびタンパク質含有率からみた適正な施肥法は、3+6+2(基肥+分けつ肥+穂肥以下同じ)Nkg/10aである(表1)。
2. 「チクゴイズミ」の場合、播種量は収量、検査等級及びタンパク質含有率から総合的にみて、5.2kg/10aが良い。また、倒伏、収量、検査等級およびタンパク質含有率からみた適正な施肥法は、0+7+2 Nkg/10aである(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 水田輪作体系で、大豆後に小麦を作付けする場合の高品質安定生産のための栽培技術資料として活用できる。
2. 小麦の分けつ肥は1月中～下旬、穂肥は3月上旬に施用する。
3. 本成果は細粒灰色低地土(埴土)の土壌条件で得られたものである。

[具体的データ]

表1 大豆後作小麦の播種量、施肥法と生育、収量、品質（平成13～14年の平均値）

品種	播種量	施肥法	成熟期	倒伏程度	稈長	穂数	千粒重	精麦重	容積重	検査等級	タンパク質含有率
	kg/10a	Nkg/10a	月日		cm	本/m ²	g	kg/a	g		%
シロガネ	5.5	3+6+2	6. 1	0	77	473	34.6	53.5	824	2.3	10.0
	"	3+4+2	6. 1	0	76	433	35.5	47.0	822	1.8	9.5
	"	0+7+2	6. 1	0	75	448	35.3	50.6	826	1.8	9.4
コムギ	7.3	3+6+2	6. 1	0	79	537	34.0	55.1	825	1.8	10.1
	"	3+4+2	6. 1	0	78	504	35.0	51.0	829	1.5	9.8
	"	0+7+2	6. 1	0	75	496	35.0	53.4	823	2.0	9.7
播種量			ns	ns	ns	*	ns	*	ns	ns	ns
施肥法			ns	ns	ns	ns	*	**	ns	ns	*
チクゴ	5.2	3+6+2	6. 3	1.2	81	432	35.5	56.8	798	3.8	9.3
	"	3+4+2	6. 3	0.4	80	422	36.5	54.1	794	2.5	8.9
	"	0+7+2	6. 3	0.7	81	443	37.2	56.0	804	2.8	9.4
イズミ	7.7	3+6+2	6. 3	1.8	81	460	35.6	54.4	790	3.3	9.1
	"	3+4+2	6. 3	0.8	80	460	37.2	53.4	797	2.0	8.6
	"	0+7+2	6. 3	0.8	80	475	37.2	55.1	799	2.5	8.8
播種量			ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	*
施肥法			ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	*	*

- 注)1. 播種時期は平成13年が12月3日、平成14年が12月10日。大豆残さは全量すき込み。
 2. シロガネコムギの播種量5.5g/10aの苗立ち数は98～107本/m²、播種量7.3kg/10aの苗立ち数は125～170本/m²。チクゴイズミの播種量5.2g/10aの苗立ち数は86～100本/m²、播種量7.7kg/10aの苗立ち数は118～136本/m²。
 3. 施肥法は10 a 当たりの窒素施用量を基肥 + 分けつ肥 + 穂肥で示す。
 4. 出穂期は両品種とも4月13日（平成13、14年平均）。
 5. 倒伏程度は0（無）～5（甚）で示す。検査等級は1（1等上）～6（2等下）で示す。
 6. タンパク質含有率は小麦全粒をケルダール法で測定（タンパク係数5.83、水分13.5%）。
 7. *, **は各々5%、1%水準で有意であることを示す。nsは有意ではない。

[その他]

研究課題名：北部九州における小麦品質の高位安定化技術の確立
 予算区分：国庫受託（21世紀プロ1系）
 研究期間：平成14年度（平成13～14年）
 研究担当者：石塚明子、川村富輝、福島裕助